

令和7年度第2回蒲郡市総合計画外部評価委員会 会議録

開催日時	令和7年9月1日（月）午後2時から午後4時まで
開催場所	第3委員会室
出席者	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学 教授 高野 雅夫 ・愛知工科大学 准教授 小林 直美 ・総代連合会 副会長 山口 俊明 ・がまごおり市民まちづくりセンター 代表 金子 哲三 ・ボランティア連絡協議会 会長 山本 なおみ ・市民公募委員 濱野 寛子 ・市民公募委員 吉原 幸子 ・市民公募委員 児玉 真伍 <p>【説明者】</p> <p>分野別計画「防災・減災」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理課危機管理監兼課長 永島 勝彦 ・危機管理課主幹兼係長 西浦 淳子 ・危機管理課防災支援監 星野 浩幸 <p>分野別計画「環境保全・生活衛生」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活部環境清掃課長 高橋 和裕 ・市民生活部環境清掃課課長補佐兼係長 廣中 朝洋 ・市民生活部環境清掃課係長 松井 亮大 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画部企画調整監 近藤 孝裕 ・企画部次長兼企画政策課長 小田 芳弘 ・企画部企画政策課主幹兼係長 伊藤 次郎 ・企画部企画政策課主事 尾崎 晴樹
議 題	<p>(1) 評価の方法について</p> <p>(2) 分野別計画「防災・減災」の評価</p> <p>(3) 分野別計画「環境保全・生活衛生」の評価</p>
会議資料	別紙のとおり
会議内容	<p>(1) 評価の方法について （事務局より説明）</p> <p>(2) 分野別計画「防災・減災」の評価</p> <p>【C委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外拡声子局をアナログ式からデジタル式に置き換えると何がかわるのか。更新の進捗状況は。 <p>➡現行のアナログ式は昭和57年に設置したもので、修理用の交換部品がないため、令和2年度より更新を進めています。聞こえ方もアナログ子局が職員の肉声を録音して放送していますが、デジタル式は人工音声</p>

となるため、録音による音の劣化がなくクリアに聞こえ、またスピーカーの質も良くなり、音の伸びも改善されます。85局中54局整備が終わり、来年度中までにすべて更新予定です。

【D委員】

・今までの市が主体で地域の方は見学という防災訓練から、地域の住民が主体的に行うようになってきており、大きな転換だと思う。地域の住民が主体というよりは、主体者の中に市民を入れ込んでいくということかと思う。

【A委員】

・防災訓練の内容を教えてほしい。

➡以前は「劇場型」という形で警察や電力会社などの実演を地域の方が見学する形でしたが、コロナ禍以降形を変えており、それぞれの地区で実際に避難所訓練を行うなど、市も取り組みますが、総代区や自主防災会が主体的に取り組んでいただいています。

【E委員】

・地域の防災訓練は毎年同じ内容を実施している地区がある。地区が自主的に行うのはいいが、内容を変えてほしい。

➡市民総ぐるみの防災訓練では、ペットの同行避難訓練や自衛隊による炊き出しなどの新しいメニューを加えながら企画しています。

【F委員】

・地区の市民総ぐるみ防災訓練に参加したことがあるが、袋でご飯を炊いたり、カレーの炊き出し訓練などを行った。参加すると大変さなどを実感できて意識が変わる。一部の人だけでなく多くの人が体験することで有事の際に役に立つと思う。

【A委員】

・どのぐらいの方が市民総ぐるみ防災訓練に参加するのか。毎年何地区で実施し、すべて回るのに何年かかるか。

➡昨年度は400名ぐらいの参加者がありました。毎年2地区で実施、5年ですべて回るように実施しています。

【D委員】

・地域の負担も増えており、そのバランスをとっていかないといけない。大変だったで終わらないように、やってよかったと思える行事の作りこみが必要。

➡4月の段階から地域の方と話し合いを始めて、終わった後も反省会を実施し次の会場の内容に生かしています。決して十分だとは思っていないが、毎年改善はされていると感じています。

・次年度の地区の方は参加しているのか。

➡話し合いには参加していないが、訓練には参加していただいています。

【G委員】

・地域の役員の方が多いと感じた。一般の方に参加してもらえるような工夫が必要だと思う。

【H委員】

・災害協定締結数が順調に伸びているがその要因と、今後も目標以上に増やしていく予定か。

➡事業者から声掛けをいただくことが多いので、その際は迅速に対応するようにしています。締結数は目標を超えたとしても、様々な業種との連携が必要となるので増やしていきたいです

・安心ひろめーるから LINE へ登録者数の移行が進んでいるということだが、指標はこのままでいくのか。

➡一つの媒体だけ増やせば良いとは判断できておらず、現時点ではすぐに LINE に切り替えるとまだ判断まではできていません。安心ひろめーるだけでなく LINE の推移も参考にしていきたいと思います。

【G委員】

・市公式 LINE は配信が多すぎて、すべて確認するのが大変でだんだんと見なくなっている。重要なものかどうか区別できれば良いが。

【F委員】

・災害メニューは切替が必要でわかりにくいという声がある。緊急情報だけ別の LINE アカウントにすればいいかと思う。

➡発信するほうも工夫が必要だと思うので、どうすればみてもらえるかを考えて研究していきたいと思います。

【B委員】

・ペットに関する防災意識が進んでいることは素晴らしい。ペットを家族だと思われている方も多いので、避難所運営等でも重要な視点だと思う。

・西尾市の防災アプリが優秀だと聞く。LINE での提供方法の工夫も必要だが、防災アプリの導入を検討してもよいと思う。

・事業者との連携は実際どのようなことをしているのか。

➡常日頃から顔が見える連絡をとりやすい関係づくりに努めています。そういった関係から防災訓練等にも協力していただいております。例えば、有事の際に電気自動車を供給してもらうにあたり、訓練時に実際に展示してもらい、電気の供給方法などを実践してもらっています。

・高齢者や障がい者の方への配慮について具体的な取組を教えてください。

➡福祉避難所の運営について、福祉事業所と協定を締結し、一時避難所である小中学校から、施設の安全性を確認したうえで順次開設していくこととなっています。

・外国籍の方やジェンダーへの配慮はどうしているか。

➡外国籍の方は指差しボードや、着替えの際に専用のテントを用意するなどの対応はしています。外国籍の方にいかに緊急情報を伝えられるか庁内で連携して研究しています。

・内閣府男女共同参画局からジェンダーに配慮した避難所運営の在り方を国の方針として示している。避難所運営に女性の視点や外国籍の方、障がいをお持ちの方等への配慮も進めてほしい。特に女性や子どもについては、性暴力などが起きない環境づくりに配慮していただきたい。

【E委員】

・障がいを持った方で、個室じゃないと落ち着かずに奇声をあげてしまう方もいるので配慮が必要。

【D委員】

・様々な要望があり、行政だけでは要望に溺れてしまう。いろいろなステークホルダーとシェアする仕組みを考えていく必要がある。

【A委員】

・災害時には NPO 等の受入も重要で、ボランティアセンターに携わる人と共有していくことも大事だと思う。

・市民と一緒にやっていくことが重要で、その点でうまく行っていると思う。市民総ぐるみ防災訓練もうまく回しており、地区防災計画も充実しており、地域が主体的に作っていくことが大事だと思うが、うまく働きかけている。ただし総代さんなどの負担が増えており、防災だけではなく地域の組織の在り方を見直さないといけないという市全体の課題かと思う。防災面でもいかに総代さんの負担を軽減し、多くの方を巻き込んでいくかが重要で、様々な部署と連携して検討してほしい。

(3) 分野別計画「環境保全・生活衛生」の評価

【G委員】

・海岸漂着物の回収について、令和3年の回収量が多いがなぜか。
➡大雨や台風による漂着物が多く、回収回数に例年大きな変化はなく、1回の回収量によって変動しており、令和3年度は特に量が多い年となったと思います。

【A委員】

・回収は誰がしているのか。
➡クリーンキャンペーンなどで民間の方に集めていただき、国の補助金等活用しながら実施しており、業者に委託して回収しています。台風などで緊急的な場合は業者に直接お願いするケースもあります。ただし補助対象として市内全域の海岸が対象となっていないため運用等難しい部分もあります。

【G委員】

・海岸漂着物の回収について、目標達成に向けた具体的な考えはあるか。
➡予算の兼ね合いもあり、具体的な数値等で示すのは難しいですが、できる限り海岸をきれいな状況にしていきたいと思います。

【A委員】

・本来ごみの回収量は減った方が良いものだと思うが、目標が上がっているということは、取り切れていないという現状があるということか。

【G委員】

・漂着物の量は減らせないと思うので、回数を増やすしかないと思う。

【A委員】

・苦情件数も本来は減った方がよいと思うが。
➡苦情をしやすい環境づくりや又もれなく対応していく体制を心がけていきます。

【E委員】

・中学生が学校に行くまでにごみを拾うという取組があり、とてもいいことだと思う。各小中学校で行うともっとまちがきれいになると思う。

【G委員】

・小学校でビーチクリーンの話をした際に海のごみの8割は陸地か流れてきたものという話をしたら、子どもたちが道路のごみを拾うようになった。

【B委員】

・ごみゼロ運動実績活動参加者数が指標として一番増えてほしい指標だと思う。

・空き家やごみ屋敷問題についてはどうか。

➡空き家は建築住宅課を中心に庁内で連携して取り組んでいます。ごみ屋敷については環境清掃課が所管しており、数年前に1件代執行を行いました。通行の支障になるような大きな案件はない。ただし近くに住んでいる方にとっては切実な課題であり、市として継続的に見守りを行っており、1件改善したところもあります。

【D委員】

・生物多様性について、海と山に囲まれているこの環境を誇りに思っている方が多く、実際に具体的に動かれている方も多い。また三谷水産高校も生物多様性に取り組んでいると聞いている。こういった情報を拾ってうまく広げて、マスコミにも取り上げてもらえたと行っている方も喜ぶと思う。

・市内には多くのイベントがあるが、イベントの企画の中でごみ拾いを企画として盛り込んでいくといいかと思う。

➡そういった働きかけは行っていきたいと思います。

【H委員】

・公害対応相談の内容で多いものはなにか。

➡雑草繁茂が一番多く半分以上を占めています。続いて不法投棄で、野焼きなどによる大気に関する苦情が多くなっています。

・530 運動実践活動参加者数について、関心のない世代へのアプローチを課題と聞いたが、関心のない世代とはどのような世代か。

➡クリーンキャンペーンの参加者の状況から、ご年配の方は意識の高い方が多い一方、20～30代の若い世代の方は関心が薄いと感じています。

【C委員】

・地域のごみ置き場でカラスの被害があり、地域だけでは対応しきれない際に環境清掃課に迅速に対応していただいたことがありありがたかった。

・5月と9月のクリーンキャンペーンは一部の方だけでなく、地区の役員や老人クラブ、学生など多くの方に携わっていただいていると思う。

・さがらの森の文化祭では、さがらの森に行くまでにごみたちにごみを拾ってもらっている。通学の途中などにごみを拾って地区の集会所等に集めておけば道路などはもっと綺麗になると思う。

【F委員】

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が三河湾環境チャレンジに仕事を休んで手伝っていると聞く。そういった協力体制ができているのいいことだと思う。 ・地域で草取りをする体制は各地であると思うが、浜町の歩道などは草が多いのでもうすこし気にしていただけるとありがたい。 ➡浜町について、草刈は道路管理者が行うものかと思いますが、クリーンアップ委員会という事業所さんたちの組織があり、日常的にごみ拾いなどを行っていただいています。 【C委員】 ・草刈は要望してもなかなか予算の関係で1回しかやってもらえないことがある。 ➡今年度より草刈の回数を増やして対応させていただいているので、少しは改善されるのではないかと思います。 【B委員】 ・地元の愛知工科大学ではなかなか学生がクリーンアップ作戦などに参加していない。何かよい働きかけができればと思う。 ・小学生の海に関する環境学習の成果を聞いたことがあり、大変素晴らしかった。これからも教育現場と行政が連携して海と山に関する学習を続けて大人になっても関心を持ち続けてもらえるとありがたい。 【E委員】 ・クリーンキャンペーン月間は5月と9月だがなぜ冬はないのか。 ➡推測ですが、春と秋の気候が良い時期に统一的に始めたのではないかと思います。また通年でごみゼロ運動も協議会や民間の方中心に行っていたいただいております。 【D委員】 ・すでに多くの方に協力していただく体制ができているので、ぜひそう言った方へ感謝が伝わるようにしていかないと先細りしていってしまう可能性もある。 ・以前ボランティア休暇という話題があったが、市民の皆さんがまちづくりに参加する際に一番入りやすいのは「環境保全」ではないかと思うので、ぜひ研究を続けていただきたい。 【A委員】 ・動物愛護に関して、地域猫に関して取組を教えてほしい。 ➡地域猫に関しては、令和4年度より取組を始めて現在30団体に活動していただいています。また当初は地域猫活動団体のみ補助を行っていましたが、今年度から個人も対象としTNR活動についても補助ができるように対象を広げています。団体の補助金額は1匹あたり上限がメス15,000円、オス8,000円、個人は対象経費の2/3で上限がメス10,000円、オス6,000円としています。昨年度が約40件で、100匹弱の補助実績となっています。 ・地域猫は地域の方が自己流でやると逆効果になってしまうことがあるので、なかなか難しいので意見交換の場があるとよい。 【G委員】 ・野犬の状況や対策はどうなっているのか。
--	--

	<p>➡市内では西浦地区で中学生がけがをしたことがあり、愛知県動物愛護センターと協力して、野犬対策を行っていますが、一番の原因としてはむやみなエサやりで、犬も地域住民も父子早生になってしまいますので、回覧文書や看板などで周知を図っているところです。</p>
--	--